

弘大・県・弘前市 プラチナ最高賞

東京で選考会「短命県返上」評価



方策の概要について説明する中路特任教授—東京・内幸町

年から弘前市岩木地区の住民を対象に行っている大規模健診で得た3千項目に及ぶビッグデータを活用。産学官民が連携して疾患の革新的予防法開発、社会展開などに取り組んでいる。

院特任教授・COI拠点長の中路重之氏は「参加する全ての関係者がウィン（勝者）となることが目標。われわれがハブ（拠点）となつて継続可能な研究を進めたい」と意欲を語った。

（若松清巳）

人口減や少子高齢化など地域課題の解決へ向けた画期的な方策を審査・表彰する「プラチナ大賞」の最終審査発表会が5日、東京・内幸町で開かれた。最終審査に残った13件の概要発表と審査が行われ、弘前大学と県、弘前市が共同で行った「健康ビッグデータで短命県返上と地域経済活性化の同時実現を目指す産学官民一体型青森健康イノベ

ション創出プロジェクト」が、最高賞の大賞・総務大臣賞を獲得した。プラチナ大賞は全国の企業や自治体でつくるプラチナ構想ネットワークと同大賞運営委員会が主催し、今回が7回目。全国の47団体から50件の応募があり、1次審査で13件に絞られた。弘大と県、市は、弘大COI（センター・オブ・イノベーション）が2005